

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 26 日

札幌市立 澄川南小学校

1 今年度の重点目標

みんなの笑顔があふれる学校

2 本年度の経営方針

進んで学び、力いっぱい生きる子
正しいこと、美しいものをつくり出す子
人やものを愛し、思いやりをもつ子
元氣な強い体をきたえる子

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	相手意識をもつ子ども	子どもも大人も相手意識をもち、笑顔で過ごしているか。	B	・児童・保護者の約90%が「学校は楽しい」と回答している現状を大切にしつつ、次年度も「笑顔」と「相手意識」を重点として教育活動を推進していく。 ・授業づくりと学級経営を基盤とし、自主的な児童会活動の活性化、達成感や一体感を味わえる行事の充実、安心できる学校生活づくりを図る。 ・各々が連携し、学校生活の様々な場面において、互いを尊重し合いながら笑顔で仲間と関わる姿を目指す。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○すみなみフェスティバルなど、子どもも保護者も先生方からとても楽しさが伝わり、笑顔があふれていてよかった。 ○児童・保護者の約90%が「学校は楽しい」と答えている現状に、学校の努力と取り組む姿勢に深く感謝している。 ○これからも笑顔の絶えない、明るく安心できる学校生活や環境をつくっていただきたいと思う。子どもたちが成長していくことを期待している。				
「学ぶ力」の育成	課題探究的な学習の充実	授業力を磨き、授業で子どもを育てているか。	B	・「できたことやわかったことを振り返っている」と回答した児童は、約85%であった。これは、「問い・学び合い・振り返り」を一貫して日常的に取り組んできた成果であり、児童が自らの達成を実感できている表れと捉えられる。 ・「めあてをもって学習すること」や「自分のめあてや課題に進んで取り組むこと」には課題が見られる。今後は、「だったら」「次は」「～だからこれからは」といった振り返りの視点を大切に、振り返りを次のめあて・目標設定につなげる指導を意図的に行い、主体的に学びに向かう姿勢の育成を図る。	A	A
「豊かな心」の育成	児童理解いじめ防止	児童を理解し、個に応じた関わりにより子どもを育てているか。 いじめを未然に防いだり、迅速に対応したりして、子どもが安心して過ごせるよう努めてきたか。	B	・心の健康観察アプリを活用し、早期発見、声かけ、聞き取りを行ってきた。また、担任だけでなく、学びのサポーター、相談支援パートナー、SC、担任以外の教職員と連携しながら児童を多面的に見取ったり、個に応じた支援、複数体制での組織的対応を行ったりすることができた。保護者とも密に連絡し、児童が安心して過ごせる環境づくりにつなげることができた。 ・今後も情報の記録・整理・共有を徹底し、未然防止のための学級経営を学年やブロックで進めるとともに、小さな変化を早期に捉え、迅速かつ確実な組織的対応と個別支援の充実を図る。	A	A
「健やかな体」の育成	運動の機会の創出 健康・食指導等の充実	子どもが運動の楽しさに触れる機会を創出しているか。 子ども自ら健康づくり、基本的な生活習慣等を図る取組を充実させてきたか。	A	・児童・保護者の約90%が「進んで体を動かしている」と回答している。外遊びの推奨やバレーボールやサッカーなどプロ選手との運動の機会の創出、スキーボランティアの協力によるグループ編成の工夫等により、運動の楽しさに触れる機会の充実と健康づくりへの意識向上につなげることができた。 ・養護教諭、栄養教諭による健康教育、食指導により、児童自らの健康づくりを図る取組も充実することができた。 ・取組を継続するとともに、指導法の研修の充実と「やってみよう」と思える場づくりを進め、運動習慣と基本的な生活習慣の定着を図る。	A	A
小中一貫した教育	小中一貫した教育 幼保小の連携	幼保小中で連携し、接続を図ることができたか。	A	・幼保小連携では、園を訪問し参観を行ったり、小学校へ園児に来ていただいて5年生と交流したりすることができた。小中連携では、札教研を通して授業参観を行ったり、中学校を訪問し子どもたちの交流を行ったりすることができた。 ・次年度は、会議や交流の内容等を教職員へ共有を図ることで、全体へ広げていく。子どもたちの交流は、年間計画へ早い段階で位置付け、計画的に行っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○すみなみホームページを拝見していると、学ぶ力や豊かな心、健やかな体、そして小中一貫した教育など、バランスよくがんばっている子どもたちの様子が伝わる。 ○心と体の両面を成長・形成させていくことは、とても大切なことであり、その両面に注力かつ実践していただいていることをありがたく思う。 ○引き続き、様々なことを計画的に行っていただき、子どもたちが大人になっていく準備に力添えすることをお願いしたい。				

学校独自に 設定する分野	自己肯定感・自己有用感を高め、子どもにとって「学びがい」のある学校づくりを進めてきたか。	A	・教職員の約9割が肯定的に回答しており、自己肯定感・自己有用感を高める取組は概ね推進できている。日常の授業や行事等を通して、子どもが達成感や所属感を味わえる場面を設定することができた。 ・取組の成果を児童自身がより実感できるよう振り返りや価値付けを充実させるとともに、「学びがい」のある授業づくりを一層推進する。	A	A
	互いに磨き合い、支え合うことで、教職員にとって「働きがい」のある学校づくりを進めてきたか。	B	・教職員の約8割が肯定的に回答しており、互いに磨き合い、支え合う組織づくりは概ね推進できている。授業研究への継続的な取組や、学年・担任外によるサポート体制の充実により、チームとして協働する体制づくりが進み、働きがいにつながっている。 ・一方で、業務の多忙さや働き方改革を求める声もあることから、業務の平準化と協働体制の充実を図り、より働きがいを実感できる職場づくりを推進する。	A	A
	保護者と信頼関係を構築し、ともに子どもを育てる意識で、地域・保護者にとって「通わせがい」のある学校づくりを進めてきたか。	A	・保護者アンケートでは、「つながりを大切にしている」との項目に95%以上が肯定的に回答し、教職員も約9割が肯定的に捉えている。日常的な連絡や丁寧な対応を通して信頼関係の構築に努めるとともに、地域と児童会が連携した挨拶運動の実施や、道警音楽隊を招いた取組など、地域の協力を生かした教育活動を推進してきた。保護者・地域とともに子どもを育てる意識の醸成を図ることができた。 ・引き続き、迅速かつ丁寧な情報発信と双方向の対話を大切に、保護者・地域と課題や成果を共有する取組を充実させる。家庭・地域と連携しながら、より一層「通わせがい」のある学校づくりを推進する。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見	<p>○授業参観、特に運動会を拝見していると、みんなが互いに磨き合い、支え合い、一つになっていて、通わせがいのある学校だと感じた。</p> <p>○これからも、先生と児童が学び合える環境づくりをお願いしたい。</p> <p>○コロナ後、初めて道警音楽隊に来ていただき、子どもたちと地域と一緒に演奏を聞くことができたこと、とても素敵な経験になったと思う。</p> <p>○今後も、学校、保護者、地域が協力しながら、子どもたちにとってよい環境をつくり上げていけたら素晴らしいと思う。</p>				